

平成 24 年 1 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

山口県の主要指標 DI 値（平成 24 年 1 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（＜好転＞－＜悪化＞＝＜DI 値＞）

前年同月比は、好転：1.3% 悪化：55.0% DI 値：▲53.7% ポイント

売上高（＜増加＞－＜減少＞＝＜DI 値＞）

前年同月比は、増加：12.5% 減少：52.5% DI 値：▲40.0% ポイント

収益状況（＜好転＞－＜悪化＞＝＜DI 値＞）

前年同月比は、好転：6.3% 悪化：53.8% DI 値：▲47.5% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 24 年 1 月末現在）

 30 以上	 10～30 未満	 10 未満～▲10	 ▲10 超～ ▲30 未満	 ▲30 以上
----------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲66.7	▲100.0	▲33.3	▲100.0	▲66.7	▲40.0	▲100.0	▲63.7
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス 業	建設業	運輸業	全 非 製造業	全 体
▲20.0	▲66.7	▲75.0	▲46.2	▲22.2	▲57.1	▲46.8	▲53.7
							

特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	<p>昨年から、J R 駅売店の売上のみが好調。昨年 1 月は豪雪で売上が減少したので、前年同月比としては良くなっているが、やっと一昨年 1 月の売上まで回復したところである。</p>	パン・菓子製造業
	<p>1 2 月度は + 7. 4 % と非常に好調。特に年末が天候・海況ともに恵まれ、主力商材の鮮魚水揚げが順調であったことが最大の要因。1 月度は 1 / 2 5 時点で昨年同時期比 + 1 0 % 程度の推移で順調。降雪が少なく天候に恵まれたことが要因。これから 2 月に向けて、天候が商材と集客を大きく左右する不安定な時期に突入する。∞プロジェクトで特産品化に取り組んだ「萩のヨコワまぐろ」は、2 月首都圏で展示会・報道発表会などプロモーションを集中して行う予定。</p>	水産食料品製造業 萩市
	<p>例年も、年が明けた時期は商品が動かないが、今年はさらに動きが悪かった。天候によるものもあるが、消費マインドが落ち込んでいるのかと思う事が多い。しばらくはこの傾向は続くと思われるので、新しい商品提案を考えないといけない。</p>	水産食料品製造業 下関市
	<p>円高の割には燃料費・原材料価格が上昇している。</p>	
繊維工業	<p>テント業界も需要が減少し厳しい状況。</p>	帆布製品製造業
	<p>先月の報告と変化は特にない。厳しい状況は続いており生産工場は現状維持の状態。一段と消費悪化ムードが業界に広がっている。シーズンの影響は無いものの、納品先の販売状況は見込みよりダウンが続き苦戦している。3 月までは生産調整が無いと思われるが、4 月以降に影響が出ると予測している。</p>	下着類製造業
	<p>円高の影響で「中国」に仕事が流れている。国内に出る仕事は「中国」では受けない小ロットのものがほとんどで、絶対量が少なく、採算が合わず、先行きを心配している。</p>	外衣・シャツ製造業
木材・木製品	<p>積極的な営業を展開している組合員は昨年並みの売上を確保しているが、営業力の無い組合員は苦戦をしている。</p>	製材業・木製品製造業 下関市
	<p>建築業界の 1 月、2 月は殆ど動きが無いので、それに伴い、我々の動きも悪化する。</p>	製材業・木製品製造業 岩国市
印刷	<p>デフレで受注価格が上がらない。用紙・インキ等の原材料の値上げも響き、利益確保が非常に厳しい状況である。</p>	印刷

	依然状況が好転する兆しもなく、業界全体が書き入れ時の年度末も期待が持てない。	
窯業・土石製品	当初見込みは上回りつつ推移するものの、前年比96パーセント。地区ごとの出荷状況は、6地区中、3地区が前年実績を上回るまだら模様。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。価格も安定して推移している。	生コンクリート製造業
	出荷量については、対前年比で骨材：80% 路盤材：91% 再生材：27% 全体では、対前年同月比：79%。総じて12月と変化なし。	砕石製造業
一般機器	タイの水害に掛かる復興は、立地条件の再検討等により当初見込より遅れる模様。又、米国及び欧州の通貨安による円高基調は更に進み、為替差損の影響は顕著に現れている。	一般機械器具製造業 柳井市
	円高による、取引先企業の海外取引低迷が大きく影響している。	一般機械器具製造業 周南市
	大手工場の爆発火災については、タンクの発注があったとの情報もあり、今後前向きになっていくものと思われる。	
	12月と同様、組合員間の景況はバラつきがある。ポイラー製作会社は、東南アジアの受注を抱えて年度末まで手一杯である。鉄骨加工については、これも年度末まで忙しい様子。年度末までの仕事が多く、現在、4月以降の受注活動に重点を置いている。	一般機械器具製造業 防府市
	受注量が減少し、カレンダー通りの稼働をしており、残業はあまりない。現状が続けば、派遣社員の雇止めが増える。	一般機械器具製造業 宇部市
	12月と比較し、変化なし。	
	震災関連の特需（水産加工機械関連）を受注。	一般機械器具製造業 下関市
	自動車業界、電気業界、民生部品関係等の受注量は低迷状態が続き、価格についてもコストダウンの要求が強く低価格化傾向が続いている。原材料価格は上昇の傾向にあり、経営的には依然厳しい状況が続き、見通しは不透明。ただし、東日本大震災の影響による漁業関連品等の受注増加に対応する為に、休日返上で稼働している組合員もある。	特殊産業用機械製造業
輸送機器	車両輸送部門は踊場状態に入ってきた。平成24年度中は上昇の機運が感じられない。精密加工部門も急激に作業量が低下し、好調維持から一転、暗雲に覆われてきた。	鉄道車両・同部品製造業

卸売業	全国的には復興需要増等により景気が良くなっている様な話があるが、地方ではそのような感じを受けることがまだない。	各種商品卸売業 柳井市
	各業種とも売上高は伸び悩み、収益状況は厳しい。景気回復に対する政治不信・金融不安・円高等の不安材料が多いので、個人消費の動向、受注単価・販売価格動向の注視を要する。そんな中、当地区では運送業・中古自動車販売・住宅建設はやや回復基調にある。	各種商品卸売業 周南市
	各業種とも売上が伸び悩み、苦慮している。	各種商品卸売業 下関市
小売業	現在は前年とあまり変わらないが、光市は企業閉鎖の発表が有り、先行きが心配。業界では、通販の売上げで数字が伸びている模様。	化粧品小売業
	年始のせいか、売り買いの動きが鈍く商品がうまくまわっていないように思う。全体的に買い取りの量が減ってきている。景気の低迷により、これよりますます買い取りが減少するように思うので厳しい業況が続くそう。	中古品小売業
	原因がはっきりしないが、近年増えつつあったトラクターや管理機の盗難が、昨年の末からさらに多数発生している。	農業用機械器具小売業
	市内各種業界のアニバーサリーイヤー年度で周年記念事業を計画立案中。商店街も参加予定で、来街者の復活の動機付け事業のひとつとして取り組む予定。	各種商品小売業 周南市
	12月に続き寒波の影響で、商店街への人出が少ない。売上もそれに応じ対前年同月比で▲4%（1/22現在）となっている。	各種商品小売業 山口市
	テナントの退店が続く、大変な状況である。	各種商品小売業 下関市
	先月オープンしたテナントの大型電機店の集客効果は、各店より「これまで見受けられなかった客層がある」との報告があり、少しの売上げアップが見受けられる。衣料品の核店舗は売場面積を半減している事もあり、売上・客数共に前年を下回っている。しかし、大型電機店分を含む施設全体としては、売上、客数共に前年をかなりアップしているのではないかと想定している。	各種商品小売業 長門市
	商店街	大型店の出店後、6か月が経ち、土日の来街者が以前に増して減少している。消費税・社会保障一体改革、年金受給等の不安材料が増し、その影響でデフレ傾向がますます進む可能性がある。中小零細企業にとっては厳しい状況が予想される。

	<p>正月明けの人出の落ち込みは例年の事であるが、例年よりも寒い為、中高年層を中心に例年以上に人出がない。商店街は、よく郊外大型店と比較されて論じられてきたが、最近の郊外大型店は人口の減少の影響を受け始め荒れてきてる実感がある。それに引き換え地元密着の商店街は、今着手することで、人口減少の超高齢化社会を生き残ることができると考えている。</p>	山口市
サービス業	<p>1 2月は好調であった。1月は寒さもあり落ち込んでいる。休みも多く、成人式のみの上となっている。</p>	美容業
	<p>デフレ社会が加速し、組合員の店は売上の確保に苦慮している。その結果、組織離れに繋がり弱体化の組合になるのではと危惧している。</p>	理容業
	<p>ハイブリッド（HV）や電気自動車（EV）に代表される次世代自動車の普及が加速している。特にプリウスに代表されるHVの新車販売比率は登録乗用車の2割弱に達しており、メーカーの新型車投入もあり、さらに増加することが予想される。整備業者が生き残るためには新技術への取り組みが不可欠であり、高度に電子制御化された車両の整備に対応できる人材育成が急務となっている。</p>	自動車整備業
	<p>自動車販売が好調で付随する取付業務が上向いている。今後も期待したい。</p>	
	<p>1 2月と状況は変わらず。システム開発案件が非常に少ない状況で、だんだん深刻化している。ただ、年度末にむけて案件は若干増えているが先行きの不透明感は変わらない。受託会社は、春先からどんどん淘汰されていくと想定されるので、今までの受託ビジネスモデルにしがみつかず、提案・コンサル営業できる体制が急務。</p>	情報サービス業
	<p>依然として厳しい状況である。中小企業のIT等への設備投資マインドが冷めきっているようにすら感じる。</p>	
	<p>1・2月はなかなか需要がのびず苦戦を強いられる時期。見積もりはしても実績に結びつくまでに至らない。</p>	屋外広告業
	<p>1 業界内の温度差がますます顕著になった。特に飲食業界が悪く、まだ底が見えない状況との報告もある。 2 東日本大震災復興景気の余波はいつ訪れてくるのか。公庫融資等についても直接支援は東日本大震災に限られるので行政支援とは無縁。 3 円高が続いているのに輸入食材の値上げが続いている事は問題だ。食材の値上げが商品価格に転嫁できない。いわゆるデフレスパイラルからの解消無くして景気の回復はあり得ない。</p>	飲食業

	4 対前年比に特に変化なし。	
	お正月気分は元旦だけであった。この1月は過去最悪な状況で、「どんな企画を出してもお客様が来ない。地元の宴会も無い。」などの声があった。状況は改善されず、ますます苦しい業況になり、地域全般で閉塞感が強く感じられる。大河ドラマ「平清盛」の影響は、今のところ無く、「巖流島決闘400周年」等の勢いが早くつけばと地域で待っている。	旅館業 下関市
	前年同月比の宿泊客数が83.3%と低調。今年に入って組合員1社が廃業し、1社が脱退という結果となり組合の運営にも支障が出るのが懸念される。	旅館業 萩市
建設業	1月は大変忙しく、仕事もあったが、来月以降の仕事が激減している。新年度の目途が立たずに不安である。	鉄骨工事業
	中電への工事申請12月299件(当支部分256件)前年同月258件(同200件)。太陽光発電への申請28件、オール電化申請24件(前年は太陽光34件、オール電化21件)。LED街路灯への切替・新設申請は39件。耐震補強工事の年度末竣工が加わり、受注状況は順調。	電気工事業
	元請業者が安価受注の為、社会保険加入等法を守っている専門請負業者の採算が合わない。総合建築業者が多すぎるのではないだろうか。	左官工事業
	岩国米軍基地関連の仕事が、地元へという防衛省の配慮が、ある程度見えてきたが、総事業量に比べるとまだまだ割合が低いと考えるので、引続き要望し受注を伸ばしていこうと考えている。	土木工事業 岩国市
	本年度発注の公共工事は、ほぼ出揃った状況で、今後は少額の工事のみとなる見込み。民間工事は少しずつの発注はあるが、採算が取れる工事は少なく、経営改善となる工事はほとんどない。	土木工事業 柳井市
	24年1月の受注高は、農林関係で受注が増え、対前年同月比138%。今年度の累計は、対前年比74%。	土木工事業 萩市
	輸送関係は毎年のことながら正月休み等の関係で稼働日数も少なく、本年は円高による輸出関連に陰りが見え、国内外共に輸送量は減少。前年同月比で26%弱の減少。高止まりの油価格が経営を左右し、月毎に圧迫感が強くなってきている。油関係は0.4円の値上げ。	一般貨物自動車運送業 下松市
1月の輸送稼働は昨年以上の良好な数字を残せ、この数か月間は安定している。しかしながら、不況下における安定に過ぎず、燃料価格等のコスト上昇は資金繰りを圧迫する。燃料価格は依然として上昇基調にあり、	一般貨物自動車運送業 防府市	

	<p>昨年同期比10%程度上昇している。</p>	
	<p>先月に引き続き売上高が低迷している。12月から1月にかけて急激に悪くなってきた感じである。取引先の大企業でも海外にある自社工場での物づくりのペースを上げていくので、日本国内での荷動きは悪くなると聞かされている。円高の影響であろう。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 宇部市</p>
	<p>当組合のETC事業の12月稼働は15%アップであった。油価格は1月中旬より下がる傾向で、一月分軽油価格は、-0当たり；インタンク（タンクローリー配送の組合備蓄分）価格100円、SS価格103～106円位である。円高とユーロの値下りやイランの問題等世界の動きは予測が難しいが、運送業界にとっての景気回復は、油価格に左右されるので今は見守るだけである。これ以上の油価格の上昇は経営に多大な影響を及ぼす。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 下関市</p>
	<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年同月比▲4.9%（12月1日～1月20日分）。12月1日～31日分は▲4.4%と減少、1月1日～20日分については▲6.1%とより大きな減少となった。新南陽地区では大手工場の爆発事故による影響、徳山地区では大手石油精製会社の規模縮小発表などで、忘年会や新年会どころではないという事のように。燃料のLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動。ブタンCPの1月分は12月分より上昇し、輸送用C重油が下がったが、タクシー会社の購入単価は、前月より若干上昇した。昨年11月～今年2月に大幅高騰した事があり、1月分の単価は前年同月比では▲9%となった。タクシー輸送需要全体が減少している事により、ガスの供給総量が減少しており、ガス会社の経営もたいへん厳しくなっているもよう。消費税増税の機運が高まっているが、現在の景気状況では、増税分の転嫁ができない企業、納税できない企業が多く発生すると思われ、今後ますます国内景気が悪化すると懸念される。東ソーの事故復旧等、新たな事業が早く開始される事が切望される。</p>	<p>一般旅客自動車運送業</p>